二〇一七年一月一七日（参加者一六名）

鴨の陣俄に乱れ小競りあひ　明日香
鴨の陣つかず離れず進みけり　明日香
鈍色の空裂けて洩る冬日かな　明日香
飛び石をエイと気合で初渡り　明日香
対岸の句友と交はす御慶かな　せいじ
地すべりの跡地に芽吹く柳かな　せいじ
梅ふふむ震災復興なりし町　せいじ
一穢なきみ空に阪神忌を悼む　せいじ
楝の実ミルクキャンデー散らすごと　なおこ
口笛を吹けばこち向く日向鴨　なおこ
奏で初む待春の川見て飽かず　なおこ
冬日燦池はダイヤの漣す　なおこ
欄四温水かげらふを見て飽かず　小袖
あふちの実万朶の小鈴散らすごと　小袖
そここに小枝の刎ねる雪解かな　小袖
地すべりの震禍の跡地冴返る　菜々
冬萌に仁川の奏でそめにけり　菜々
飛び翔つも阿吽の呼吸番鴨　菜々

磊々はみな丸き石水温む　うつぎ
鵜に追はれ汀へ退避日向鴨　うつぎ
身に入むや震災資料館を出て　たか子
吟行の寒しカフェーへエスケープ　たか子
大池に伝はる神話鴨群るる　ぽんこ
強風にちぎれちぎるるどんどの火　ぽんこ
高台に立つ慰霊碑や阪神忌　満天
青空を支ふるごとし辛夷の芽　満天
自づから序列をなして鴨進む　有香
初雪がどか雪となり屋根悲鳴　有香
梢より洩るる鳥語や春隣　わかば
コロニーを棲み分く鷺と汀鴨　わかば
絵灯篭みな手作りや阪神忌　はく子
風神の一と吹きに揺るとんどの火　ひかり
阪神忌未明の闇に祈りけり　よう子

定例句会みのる選

二〇一七年一月一七日（参加者一六名）